

土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 第 24 期第 1 回分科会議事要旨

- 日時： 平成 30 年 1 月 24 日（水） 16:30-18:00
- 会場： 日本学術会議 5 階 5-C(1)会議室
- 議題： 1. 第 24 期の分科会の設置と構成（資料 1、資料 2）
2. 第 24 期の体制について（委員長選出、副委員長・幹事の指名）
3. 第 24 期分科会委員の追加について（資料 3）
4. 第 23 期の活動まとめ（メール追加資料）
5. 第 24 期の方針（案）について
6. 今後の関連行事等
7. その他
- 出席者： 小池俊雄，江守正多，沖大幹，川崎昭如，小森大輔，近藤昭彦，佐竹健治，高橋良和，寶馨，多々納裕一（スカイプ参加），塚原健一，新野宏，西嶋一欽，林春男，望月常好，山岡耕春
- 欠席者： 春山成子，大手信人，桑野玲子，小松利光，鈴木康弘，緑川光正，目黒公郎
(以上，敬称略)

議事要旨

1. 第 24 期の分科会の設置と構成
世話人の小池俊雄委員から第 24 期の分科会の設置と構成の説明がなされた。
2. 第 24 期の体制について（委員長選出、副委員長・幹事の指名）
 - 世話人の小池俊雄委員から委員長選出に関して発議があり，議論の結果，寶馨委員に委員長をお願いすることが提案され，承認された。
 - 寶馨委員長から，副委員長に林春男委員，幹事に多々納裕一委員と小森大輔委員が指名され，承認された。
3. 第 24 期分科会委員の追加について
 - 小池俊雄委員から，斎藤大樹・豊橋技術大学教授，福井秀夫・政策研究大学院大学教授，山本佳世子・電気通信大学大学院准教授の 3 名の追加が報告された。
4. 第 23 期の活動まとめ
 - 小池俊雄委員より第 22 期（2011-2014 年：2015 年 3 月の第 3 回国連防災世界会議（仙台）に向けての 2015 年 1 月東京宣言に至るまでの活動など），第 23 期（2014 年-2017 年：2016 年伊勢志摩 G7 サミットに向けて G-Science 学術会議共同声明「持続可能な発展を支える災害レジリエンスの強化」の策定から、2017 年 11 月の災害レジリエンス世界フォーラムに至るまでの活動と東京コミットメント）での議論の経緯とその後の展開が紹介された。
 - 林春男委員より IRDR 科学委員会の現況が紹介された。寶馨委員長より IRDR Young

Scientists Programme (3rd Batch) の紹介がなされた。

<http://www.irdrinternational.org/2018/01/12/irdr-young-scientists-programme-call-for-application-3rd-batch/>

- 塚原健一委員より IRDR 各国国内委員会の動向に関して現況の報告がなされた。国々によって課題が異なるので研究興味が重ならないことが報告された。

5. 第 24 期の方針（案）について

- 今後の具体的な進め方について議論がなされ、以下のような意見が出された。
 - ・ 第 22 期・第 23 期にて IRDR の Framework, Action まで進められたことより、第 24 期では「発信」を強化していくことが大事なのではないか。例えば、研究成果を年に 1-2 回発信できる場を設ける、IRDR Young Scientists Programme (3rd Batch) への参加、など。
 - ・ IRDR 研究が重点領域として予算が付けば、世界の Young Scientists を巻き込みながら日本主導で IRDR 研究に取り組めるのではないか。
 - ・ 国際会議などで、アジア組、英語圏組にグループ化してしまうのを避けられないか。
 - ・ IRDR が IPCC のようにうまくいかない理由は予算が集まらないことと考えた場合、IRDR は未だ大衆に強い関心を持たれていないことの裏返しではないか。そう考えた場合、大衆に IRDR に強い関心を持つよう先導することが大事なのか、現在のアプローチ（視点）を変えるべきなのか、こういったことを今一度考えるべきではないのか。
 - ・ 他のグループ（例えば保険関連）と連携して予算を集めることはできないのか。
 - いくつかケースはある。
 - ・ ノーベル賞級の重点領域でないと文科省に新たな予算は期待できない。文科省以外ではベルモントフォーラム（JST や JSPS も関与）などがある。

6. 今後の関連行事等

- 5/21-22 に土木工学・建築学委員会の全体会議があるのでこの前後に分科会を開催する。
 - ・ すでに 5/21 午前に低頻度巨大災害分科会が開催予定
- IRDR 分科会と「科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会」と合同分科会を今後行っていくのが良いのではないか。

7. その他

- メーリングリストを準備する（小森）